

アメリカのシリア攻撃の多層的分析

【訳者注】The Saker という人の論文は、しばしば取り上げるが、彼は専門的な詳細な知識と、注意力・分析力によって、事実をあぶり出す能力をもっている。White Helmets の悪事を暴いた Moon of Aabama の論考：<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170116.pdf> もそうだった。これも同様に、緻密な事実の分析によって、我々の蒙とメディアへの欲求不満に応えてくれる。

我々がいま頭を掻いて悩んでいるのは、トランプが完全に向こう側に取り込まれて——ミイラ取りがミイラになって——本気でプーチンと敵対しようとしているのか、それはある程度まで戦略的な大勢順応のジェスチャーで、何らかの深慮遠謀が背後にあるのか、ということである。我々（少なくとも私）の願うことは、この2人が協力して、このグローバリスト陰謀団の泥沼を一掃してくれることだから、少なくともその希望を与えるこのような論考は胸を躍らせる。私は、あの4月4日のシリア空軍基地爆撃の実行2時間前に、モスクワに事前通告を与えたことにカギがあると思っている。トランプは、ロシア空軍の抜群の能力を知っていて、ミサイルの半数以上が届かなかったというアメリカの失敗は、ある程度、予想していたのではないだろうか？

The Saker

April 11, 2017, Information Clearing House



最新の、アメリカのクルーズ・ミサイルによるシリア空軍基地攻撃は、いろんな意味で極めて重要な意味をもつので、ある程度詳細に調べてみる必要がある。私は、このかなり奇怪だが、それでも深甚な結果を及ぼす攻撃に、いくらかの光を当てることができるものと期待して、それを試みることにする。しかし最初に、

何が現実には起こったのかを調べてみよう。

口実：

私は、アサドや、シリア政府の他の誰かが、化学兵器攻撃を他の誰にでも行うことを本当に命令したと、真面目に信じている者はいないと思う。それを信じるためには、次のような連続事象を論理的展開と考えねばならなくなるだろう——第一に、アサドはダーイシュ (IS) に対する戦争にかなり勝利し、相手は全面敗走している。次に、アメリカは、アサドを倒すことが優先課題では、もはやなくなったと宣言（ここまではすべて事実で間違いない）。その次に、アサドが、自分の持っていない兵器を使う決定をする。彼は、どんな軍事的価値もないが、沢山の子供とカメラの多い場所を攻撃する決心をする。次に、ロシア政府が十分な調査を要求すると、アメリカ政府は、その考えがまだどんな支持も得ないうちに、大急ぎで攻撃をする。そして現在、米政府は、このいわゆる攻撃にロシアがかかわった可能性を調査している。正直言って、もしあなたがこれを少しでも信ずると言うなら、直ちに読むのをやめてテレビに戻った方がよい。それ以外の人には、3つのオプションがある：——

<http://www.veteranstoday.com/2016/12/06/u-s-officials-russia-and-assad-won-the-syrian-war-and-new-world-order-agents-lost/>

<http://www.aljazeera.com/news/2017/03/nikki-haley-bashar-al-assad-syria-170331005600046.html>

<http://www.reuters.com/article/us-syria-crisis-chemicalweapons-idUSKBN0EY18T20140623>

<http://www.cnn.com/2017/04/07/world/syria-military-strikes-donald-trump-russia/>

1. 古典的なアメリカによるニセ旗。
2. 何らかのガス、おそらく塩素で絶対にサリンではないものを、たまたま貯蔵していた場所を、シリアが攻撃した。このオプションは、偶然の一致を信ずることを要求する。私はそれは信じない。それとも、
3. アメリカが悪質な情報をシリアに伝え、毒ガスが貯蔵されているとアメリカが知っていた場所を、シリアに爆撃させた。

明らかなことは、シリア軍が航空機から化学兵器を落としたのでないこと、そして、どんな毒ガスも al-Shayrat 空軍基地に貯蔵されたためしはないことである。毒ガスを配達したと思われる弾筒や貯蔵器を示す、どんなフィルムも存在しない。アメリカや他のレーダー記録について言えば、それらに可能なのは、上空に航空機が存在すること、その方向、高度、速度を示すことだけであって、レーダーによって、毒ガス弾や化学攻撃を見分けることはできない。

どの選択肢を選ぼうとも、シリア政府が化学兵器を使用したと非難することは不可能で、それは自明である。これはニセ旗攻撃の可能性が最も大きい。

歴史記録を見ても、アメリカは、まさにこのようなニセ旗攻撃を何度も考えている。この計画についてすべてを、[ここ](#)や[ここ](#)で読むことができる。

<http://www.globalresearch.ca/deleted-daily-mail-online-article-us-backed-plan-for-chemical-weapon-attack-in-syria-to-be-blamed-on-assad/5339178>

<http://web.archive.org/web/20130129213824/http://www.dailymail.co.uk/news/article-2270219/U-S-planned-launch-chemical-weapon-attack-Syria-blame-Assad.html>

攻撃：

アメリカとロシアのニュースは、共に次の事実については一致している：—— 2隻の米海軍艦船が、シリアのアルシャイラト空軍基地に向け、59発のトマホーク・クルーズ・ミサイルを発射した。アメリカは、政治的レベルでロシアに相談をしなかったが、軍事チャンネルを通じて、アメリカはロシアに2時間前の事前通告を与えた。この時点から、説明は食い違い始める。

アメリカ側は、すべてのミサイルが標的に命中したと言っている。ロシア側は、23発のクルーズ・ミサイルだけが空軍基地に当たったと言っている。その他は説明されていない。ここは、私の考えでは、アメリカがウソをつき、ロシアが真実を言っていることは、反論の余地がない。主要滑走路は無事残っており（ロシアの記者たちは、これを証明するフィルムを提供した）、1本の移動滑走路が破壊されただけである。のみならず、シリア空軍は24時間以内にその活動を再開した。36発のクルーズ・ミサイルは、彼らが意図した目標に達していない。それは事実である。

同様に反論の余地のないのは、この基地にはいかなる毒ガス弾もないことである。それはシリア兵もロシアの記者も、ガス防護服を着けていないことからわかる。

この攻撃に使われたミサイル“トマホーク”は、3つの方向指示装置のどの組み合わせでも使うことができる——GPS、慣性航法装置、および地形マッピング。ロシア軍が、たった1発の防空ミサイルさえ発射したという証拠もなく、報告さえない。実は、ロシアはアメリカとの間に覚書を交わし、アメリカが、有人・無人を問わず、シリア上空を飛ぶことに、ロシアが干渉しないことを約束させた（逆もしかり）ことがあった。これらのトマホーク巡航ミサイルは、1980年代に開発されたものとはいえ、使われたミサイルが賞味期限を過ぎていたと信ずべき理由はなく、それらは2014年に製造されたという証拠さえある。トマホークは正確で信頼できることで知られている。ミサイルの半数以上が、単に自然に誤って機能したのだろうと考えるべき根拠は全くない。私はしたがって、**36の行方不明のクルーズ・ミサイルに何が起ったのか**について、可能な説明は2つしかないと考える：——

<http://thesaker.is/syria-us-missile-strike-naval-brief-nb-0517-april-08-2017-by-ledahu/>

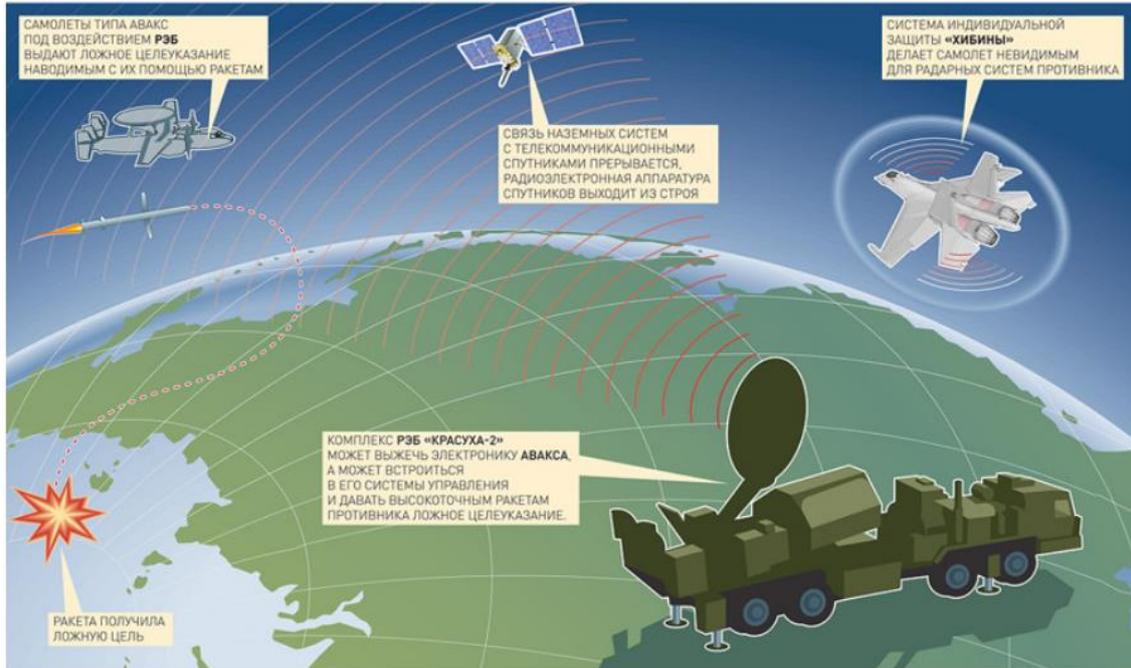
説明 A: トランプは、決してシリアを本当に激しく攻撃する意図はなかった。そしてこの攻撃全体が単に「見せ物」であり、米海軍は、地中海上で、これらのミサイルを故意に破壊した。このようにすれば、トランプは自分を強者に見せ、一方で、ロシアと協力するという彼の計画を、本当に台無しにするほどのダメージを与えないで済む。私はこの説明が正しいとは思わない。それがなぜかを、下の政治的分析で説明しよう。

説明 B: ロシア軍は、アメリカのミサイルを撃ち落とすことは法的にできなかった。のみならず、これらのクルーズ・ミサイルが、地中海からその目標へ直線コースを飛んだ（したがって、ロシアのレーダー位置のほとんど真上を飛んだ）と、想定するのは間違いである。トマホークは、ある種のレーダーの周りを、接戦方向に飛ぶことができるように特別に設計されている。それらはまた、特に前線においては、非常に低い RCS（レーダー可視性）をもっている。これらのミサイルのあるものは、ロシアが AWACS＝早期警戒管制機を飛ばしていなければ（どうだったか私は知らない）、おそらく、ロシアのレーダーに見つからない十分に低い高度を飛んでいただろう。しかしロシアはこの攻撃を警告されていたから、彼らは、電子戦争ステーションが“焦げつく”のに備える十分な時間があり、そうならず、クルーズ・ミサイルの少なくとも一部を不能にすることができた。**私はこれが正しい説明だと信じている。**

私はロシアが、基地に到着した 23 発のミサイルを、破壊し混乱させることが技術上できなかったのか、それとも、36 発のミサイルの破壊にロシアがかかわったことを偽装するために、半数以下のクルーズ・ミサイルは通過させる、政治的決断がなされたのか、それはわからない。自信をもって言えることは、36 発の発進されたクルーズ・ミサイルが“単に消えた”のではないことである。ロシア軍が、彼らの EW（電子戦争）システムを使い、ミサイルは使わないことに決めたと思われる 2 つの理由がある：——第一に、それは“もっともらしい否定可能性”を彼らに与える（少なくとも一般大衆に対して）。アメリカの信号情報ユニットがロシアの電子干渉を見破ったことは疑いない（たまたまそれが、非常に低い電力、非常に高い周波数で、内陸奥深くでなされたのでなければ）。そしてそれは、EW システムを使うことによって、彼ら自身の戦力を保護するための対空防衛ミサイルを、保護することが可能になるからである。ロシアに、本当にこれができるのだろうか？

↓

КОМПЛЕКСЫ РЭБ ПОСЛЕДНИХ ПОКОЛЕНИЙ СПОСОБНЫ ЗАЩИТИТЬ СУХОПУТНЫЕ ВОЙСКА ОТ УДАРОВ С ВОЗДУХА, А СВОИ САМОЛЕТЫ ОТ ВРАЖЕСКОЙ ПВО



この絵をよく見ていただきたい。これはあるロシアのウェブサイトからのもので、重要なロシアの電子戦争システムのいくつかを生産している会社、Kret の作ったもののようなものである。お気づきだろうか？ 左側の AWACS 機の真下に、Tomahawk タイプのミサイルが向きを変え、最後に海上で爆発しているのが、はっきり見える。

<http://liveras.mirtesen.ru/blog/43184737459/Buduschee-voyn:-kompleksyi-radioelektronnoy-borbyi-REB-Krasuha-4>

これが、どのようになされるのかは憶測するしかない。我々が教えられているのは、ただ、このミサイルが“間違っただけ”を与えられていることだ。しかし我々の目的のためには、これは実はどうでもよい。重要なのは、ロシアが、自分たちはクルーズ・ミサイルの向きを変えさせることができるという情報を、基本的にリークしたことである。エネルギー・ビームを照射して、基本的に“焦げつか”せたか、あるいは少なくとも、地形フォロワーや慣性航法装置を混乱させた可能性もある。中には、それはミサイル全体をシャットダウンする“キル・スイッチ”なのだという人たちもいる。そうかもしれない。これもまた、我々の目的のためにはどうでもいいことで、重要なことは、ロシアが、アメリカのクルーズ・ミサイルを翻弄し、向きを変えさせ、または破壊する手段をもっているということである。これらのシステムが今回、初めて怒りをもって用いられたのは、確かだと思われる。